

松に轉じて樽庵と號し、十三年には京に遊んだ。麥水が更に伊勢派に傾らなくなつて貞享の苗裔調を主張したのはこの後のことで、常に大坂に來往し、明和七年に俳諧歌求・貞享正風句解傳習、安永二年に蕉門一夜口授、六年に新韻栗などを續々著作してゐる。晩年は金澤にあつて藩侯前田重敏に中將業を傳へ、御醫師を以て待遇せられた。天明三年十月十四日歿する時年六十六。法益寶言院道雪。大乘寺山に葬られ、遠山墳と稱したが、後人之を金澤の西勝寺に移した。句集に萬葉があり、又稗史に筆を染めて、昔日北華錄・奥羽錄、續々本邦史記・琉球圖和錄・難波錄、慶長中外傳・寛永南島變・慶安太平記があり、雜著に三州奇談・越酒白波、東海道紀行等があり、註釋には寶生流謡曲詠解察形子がある。一子陸之丞は能大夫諸橋氏を嗣いで權進と稱し、外に一女があつた。麥水の歿後門人等追悼の句集を編して阿羅屋・落葉搔といふた。

ホリハンエモン 堀半右衛門 後喜市郎に改めた。天正十一年前田利家に仕へて千二百俵を興へられ、十二年弟左太郎と共に末森役に戦死した。子孫藩に世襲する。

ホリヒテハル 堀秀治 通稱久太郎・左衛門督。父は秀政。天正十八年十一月四日父の遺知を襲いで越前及び加賀江沼・能美二郡を領し、慶長二年越後春日山四十五萬石に移封せられ、正保二年歿。その子越後守忠俊の時、慶長十五年羽州岩城に謫せられた。

ホリヒテマサ 堀秀政 通稱久太郎。初め江州佐和山城主であつたが、天正十三年八月羽柴秀吉から越前十八萬石及び加賀江沼・能美二郡八千六百九十一石二斗八升を賜はり、

北・庄に移り、十八年相州小田原役中に病死した。

ホリヒテミチ 堀秀通 通稱七郎兵衛。堀左衛門督秀治の孫で、越後守忠俊後易後の子である。寛永十三年前田利常から無役人持組に召出され、千石を賜はり、延寶六年に歿した。其の子右京秀林父の遺跡を繼ぎ、秀林の子主馬秀滿に至つて、享保九年流刑に處せられ断絶した。七郎兵衛が四男の末流は世々藩に仕へた。

ホリヒテミツ 堀秀滿 通稱主膳・主馬。初め新知加増合はせて八百石(内二百石與力知)を領したが、正徳三年父右京秀林の遺知千石(内二百石與力知)を得、奥詰となり、寶永二年寄合組に班せられた。享保九年八月廿一日四十歳の時藩侯前田吉徳の居室に侵入して直諫した爲、十月廿七日十五人扶持を賜うて、能登島の内須曾に配流、後その地で歿した。秀滿は龜達と號して室鳩巢に學び、傍ら槍術を善くしたといふ。

ホリベキユウアン 堀部休庵 初め宇喜多秀家に仕へた醫師で、後來りて前田利長に臣事した。子養叔百五十石を領し、元祿七年致仕。その子養叔の時更に百石を加へ、享保七年三月歿。次代養竹は元文二年歿。次代養叔初名三竹は二十人扶持を得て延享三年歿。次代三伯は五人扶持を受けたが、早世して家断絶した。

ホリベサクサエモン 堀部作左衛門 父は彌兵衛。元祿九年遺知七十石を襲ぎ、享保二年町同心となり、十三年五十石を加へ、元文二年五十七歳を以て歿した。

ホリベヤヘエ 堀部彌兵衛 延寶六年十一月前田綱紀に仕へて七十石を領し、元祿八年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ホリベヨウサ 堀部養佐 休庵の次子。藩の御醫師として祿百五十石を受け、寶永七年歿した。歳七十九。食物私説の著がある。

ホリマサキ 堀政材 通稱四郎左衛門、幼名館太郎。天保四年馬廻組に班し、祿百五十石を受け、明倫堂句讀師。改作奉行、郡奉行。馬廻組番頭を經、次いで組外番頭を以て前田慶寧の近習を兼ね、國事を論じて尊攘の義を勸めることが多かつた。是を以て元治元年慶寧退京の事あるに及び、八月寺西要人の邸に幽せられ、十月十九日能登島に謫せられた。その子重次郎・普次郎も連座して流に當てられたが、齡尚幼なるを以て暫く一預預となつた。明治元年三月藩大赦令によりて政材の罪を赦し、二年十月族籍を復し、原秩三分の二を給した。後名を四郎と改め、藩吏となり、神職となり、晩年鹿島郡八ヶ崎に住して、兒童に啣語を授け、廿九年三月十七日七十八歳を以て歿し、大正六年十一月十八日特旨を以て従五位を贈られた。

ホリマサタケ 堀正武 通稱準之助治部左衛門。初陣正建。兵助正勝の養子。寶永二年遺知二百石を襲ぎ、延享元年大小將組に班し、大銀奉行に任じたが、三年四月廿四日縮所から脱出した伴他忠太の爲に夫婦共に殺された。

正武時に六十七歳。他忠太は公事場に收容せられ、四年十月廿二日生嗣に處せられた。

ホリマサタネ 堀政殖 通稱久米之助・才三郎・才之助。父六郎兵衛は本多圖雷の與力であつた。政殖、寛保二年七月前田宗辰の御近習御歩並として四十俵を受け、延享二年新番、明和七年新番小頭百五十石、天明五年五十石を加へ、御大小將組に列して御膳奉行となり、寛政五年組外に轉じ、文化六年五月十二日八十歳を以て歿。子孫藩に世襲する。

ホリマサタロウ 堀政太郎 大聖寺の人。田一政の二子で、堀良八の家を襲いだもの。明治初年金澤に派遣せられて、西洋算法を學び、歸郷の後諸學校に教授した。明治四十一年二月十七日歿、享年五十六。

ホリマツ 堀松 羽咋郡堀松庄に屬する部落。能登名跡志に「堀松村は國田何某とて十村役あり。此村は此邊の驛にて能き村也」とある。

ホリマツクシダ 堀松串田 羽咋郡の舊村名。大永六年の一宮社務職年貢米錢納帳に、「二貫參百文、堀松串田村かつさ」とある。堀松串田村は廢絶して後世存せぬ。

ホリマツシヨウ 堀松庄 羽咋郡に在つた。承久三年注進の能管國田數目録に、「堀松莊、捌町二段五、建久八年立券」と見え、同目録目錄解に之を古への神戸郷の内であるとしてゐる。又續寶簡集所載文永十年十一月十四日の文書には、その日吉社領たる事が記され、後世亦堀松庄の名が存する。

ホリマツシヨウ 堀松庄 羽咋郡に屬し、藩政時代では、堀松・清水今江・吉田・梨谷小山・火打谷・矢藏谷・神代・川尻・上野・大津小